

第6次高浜市総合計画推進会議（第6回） 会議録			
日 時	平成24年3月19日（月）午後6時30分～7時45分		
場 所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	10名
出席者	委 員	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、鈴木康博、神谷環光、竹内亨弘、井野代司彦、古橋知美、神谷通夫、杉浦幸七 (11名出席)	
	事務局	地域協働部長 加藤元久 地域政策グループ リーダー 岡島正明 同 主 査 井野昌尚 同 主 査 鈴木明美 同 主 査 山本久美 同 主 事 岩崎和也 同 主 事 中村彩 (7名出席)	
次 第	1 会長あいさつ 2 議題 1) 「高浜市の未来を創る市民会議」のあり方について 3 その他		
資 料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第5回）会議録 資料2：平成23年度「高浜市の未来を創る市民会議」を振り返って【資料編】 資料3：「高浜市の未来を創る市民会議」のあり方について（提言）【案】		

1. 会長あいさつ

- ・第6回第6次高浜市総合計画推進会議を始めさせていただく。
- ・第6次総合計画がスタートして1年。市民会議を通じて、市民と職員が目標達成に向けて、力を合わせて取り組んできた。3月2日に開催された今年度最後の市民会議でも、各分科会で取り組んできた実行テーマの成果発表があり、工夫を凝らした楽しい発表だったと伺っている。
- ・来年度からは、施策評価ということで、目標に向かってきちんと取り組みの成果が表れているか、みんなで目指すまちづくり指標の点検・確認作業が始まる。
- ・本日の推進会議では、1年間の市民会議の取組みを振り返り、来年度の市民会議がより良いものとなるように、良かった点、課題・見直すべき点を洗い出し、「市民会議のあり方について」の提言書を、市長へ提出したいため、活発なご議論をよろしくお願ひしたい。

2 議題

1)「高浜市の未来を創る市民会議」のあり方について

事務局より、資料2「平成23年度「高浜市の未来を創る市民会議」を振り返って【資料編】」を基に説明。

【質疑等】

- 会 長： ・資料3は、今説明いただいた資料2の総括の部分を取りまとめたものとなる。資料2、3の内容を、委員の皆さんにご確認いただき、行政へは、委員の想いを汲み取り、来年度の企画を検討していただきたい。
- ・後ほど、委員の皆さんお一人ずつ、1年間のご感想など、コメントをいただきたいが、確認しておきたいこと、質問等があったらお願いしたい。

—質疑なし—

- 委 員： ・財政分科会は熟年層が多かった。意見はまとまりやすかったが、30代前後や、大学生の子どもを持つ年代くらいの女性がメンバーに入っただけだと、家庭に分かりやすい財政、言い回しのヒントになったと思う。ぜひ来年度、ご紹介いただきたい。

- 委 員： ・自治推進・協働分科会は、新しいメンバーが多く、初めは心配があった。副読本作成という大きな目標があったため、チームワークが良く、意見が多く出て助けられた。副読本も完成し、また、分科会のメンバーともたくさん話が出来たため、楽しく、勉強になった1年だった。これからは、副読本をどのように認識してもらおうか、しっかり考えていきたい。

- 委 員： ・教育・子ども分科会は、あまりにも母体が大きかった。計画がはっきりしていなかったため、分科会メンバーも、発言する機会も少なく、不完全燃焼になってしまった点は反省している。分科会を再構成してはどうかという意見もあるため、来年度は考えていただければと思う。
- ・他の分科会との連携については、方法を十分議論して、スケジュールを前もって立てていただきたい。市民会議は、企業で言う企画、構想検討の場。行政では、業務プロセスを改革したり、何かを活用したいといった目的があるはず。そういう場合は、いつまでに何をやるという計画が

必要。単純に「アイデアを募集します」と丸投げされると難しい。

委員：・市民メンバーは一生懸命、会議以外でも話をしているが、発表などから、行政の横の連携が見えなかったのが残念。市民が参加することで、行政活動の手助けをするのが市民会議だと思うが、市民会議が始まる前と1年経った後との行政の対応を見ると、あまり変わっていないように思う。

・教育・子ども分科会は、一部の方が発言するだけで、その他の人には不満があったと思う。いろいろな人が発言できるようにしたい。市民会議は、考えて実行していく場。イベントを行う場ではない。市民がつくる横の連携に応じて、行政も横の連携をしていただきたい。

委員：・コミュニティ・ビジネスの創出という、非常に難しいテーマの中、いろいろな意見は出たが、形にはならなかった。コミュニティ・ビジネスを創出する、もしくは、企業を誘致し、財政を豊かにするという目標があったにも関わらず、高浜市には空き地が増えてきており、今後の高浜市の財政を危惧している。

・若い女性が参画できることが望まれるとあるが、そうになると、託児を行うなど、もっと配慮が必要になってくる。来年度に向けて、行政がどのくらい力を入れてくるかに期待したい。

委員：・環境・憩いの場分科会には、実際に環境問題に関わっている方が多かったため、前向きに検討出来た。分科会のテーマには、憩いの場づくりもあったが、今回は、ごみの減量と分別の精度を上げることに集中したため、憩いの場づくりについて検討できなかったことは残念。憩いの場づくりというのは、テーマが大きすぎ、どう検討すれば良いのか分からなかった。来年度は、「憩いの場づくり」ではなく、「まちをきれいにする美化活動」、「ポイ捨てや落書きのない美しいまちづくり」など分かりやすい言葉に持っていくと、活動につながっていくのではないかな。

・行政職員の活動を2年見てきたが、1年目と比べると、よく勉強をされていると思う。市民から言われっぱなしではなく、かなり勇気を持った発言が感じられた。非常に良いことだと思う。

委員：・描く市民会議では、自治基本条例分科会に参画していたが、分からないことが多く、いつもプレッシャーだった。高浜まち協で、防災の委員になり、今年度から防災・防犯、快適な都市空間分科会に移ったところ、東日本大震災が起これ、大変プレッシャーを感じた1年だった。紙ベースで地図などをつくるとお蔵入りになる可能性があるため、現在、電柱に標高サインを貼っている。日常的に目に見えれば、市民に関心を持たれると思う。地域防災ネットワークについては、1月に立ち上げた防災ネットきずこう会で、展開していきたい。

・今年度、防犯についての検討が出来なかったが、まだ防災に時間がかかると思われるため、分科会を別に開くことが出来るよう、配慮いただけるとありがたい。

- 委員： ・ 2年目に入り、新しいつながりが出来、感謝している。見える結果については、今回どうだったという意見はなかったが、わくわくフェスティバルでアンケート調査を行ったり、防災フォーラムの共催が出来たことは、満足感があつたようだ。ただ、何をやっているのか、どの方向を向いているのか分からないという意見や不満もあつた。連携する場合も、市民側だけで話をするのではなく、行政の連携もないと上手くいかないと強く言われる方もいたため、連携の仕方は考えていただきたい。これだけの意見が出た地域福祉分科会には、来年度も、期待が持てると思う。
- 委員： ・ 創る市民会議の立ち上がりでは、市民 45,000 人の健康は健康分科会に任せなさいと強気で言った。最後の方は、自分と家族の健康を守ろう、になってきたところはあつたが、個人の健康が市民の健康につながるの Good と思う。9月に、「実行テーマ」に対して他の分科会から、「もう少しポイントを絞った方がやりやすいのではないか」、「推進途中で新しい考えや活動を加えてほしい」、「1人でも多くの理解者を得る活動をしてほしい」など、いろいろな意見をいただいた。分科会に、健康推進委員の方がいたため、疑問にすぐ答えが返ってきて、やりやすかつた。職員リーダーには、事前打合せにも協力いただき、分科会前には、2回程会って打ち合わせをした。次回もこうした形でいければと思う。
- 委員： ・ 職員に対し、いろいろご意見いただき感謝申し上げる。コメントの中に、厳しいご意見もあり、期待もあり、難しさを感じた。全ての能力がそろつた職員がいるわけではないため、人材育成の途中にあると思われる。
- ・ チームワークという観点は、大切なことだと思ふ。しかし、油断をすると、誰かが助けてくれるという感覚に陥る危険性もある。基本は、一人ひとりが責任を持って、自ら考え、自ら学んで、自ら行動することが、本当のチームワークにつながる。いただいたご意見を踏まえながら、常に職員の意識改革と高揚を図ることが大切と感じた。今後も、皆さんからご示唆いただけることをお願い申し上げたい。
- 会長： ・ 分科会同士の連携、細分化のルールについて確認したい。昨年度、教育、生涯学習、子育て・子育てと分かれていた分科会が、今年度から合同で行い、やりにくかつたという意見があつた。適正人数に戻すべきだと思うが、連携するとなると、また同じことになる。参画感や達成感のある方法を考えたい。連携する場合、テーマを絞らないと出来ないという意見もあつた。
- 委員： ・ 以前から、防災とボランティアの関係で連携したいという意見があつたが、防災フォーラムでは上手くつながらなかつた。大勢になると意見が割れてしまうかもしれないが、各分科会で意向をまとめた上で、話し合うと良いのではないか。
- 会長： ・ 福祉には、高齢者、障がい者、母子などたくさんのテーマがあり、テーマを絞らないと、全てを対象にしているのは、果てしなく広がってしまう。

- 委員： ・元々は隣近所の交流がないというところから震災の話が出た。人を集めるきっかけとして、今は、防災が身近で、関心が高いということから、それを重点的に今年度は話し合った。
- 委員： ・描く市民会議では、教育、生涯学習、子育て・子育の3つの共通点が多いため、早い段階で連携しようとお願ひしていたが、連携にはいたらず、まとまったら出来るのではないかとこの1年やってきた。
- 委員： ・こんなことを考えているが、どれについて検討しましょうかと具体的な案を示して、いつまでに何を決めて、どういう方向に持っていくという大きな計画がないと、みんなボランティアであるため、他に忙しいことがあると、優先順位が下がってしまう。出来れば、ポンチ絵などがあると良いが、具体的な考えや計画がないと、分科会を分けても、連携するときに、また同じことが起きる。その点について、知恵をいただきたい。
- 会長： ・生涯学習基本構想の話が、行政側から、後から出たため上手くいかなかったと思われる。分科会内部からあがってきた連携の要望ではなく、外部からだった。
- 委員： ・教育・子ども分科会は、非常に人数が多いという部分、取り回しの仕方、事前打合せがあったかどうかという点も含め、反省すべき点が多い。
- 委員： ・行政の発表で、連携という話がたくさん出ていた。市民会議で出た意見を基にまとめたにも関わらず、行政の中で連携という話がたくさん出ていて、職員は疑問を持たなかったのか。各分科会を担当した職員が調整する場があれば、無駄なく、効率の良い運営が出来るのではないかと。市民も、全員が時間にはそろえないところもあるが、一生懸命、時間をつくって、話をして取り組んできた。
- 会長： ・連携する際は、こういう課題を抱えているが、この分科会ではどう考えるかと投げかけ、この課題はこの分野で検討できるなどのやりとりをする。これは、行政職員を通して、委員同士で話し合っても良い。
- 委員： ・市民同士でのキャッチボールは多少あった。それを行政が受け止めたかどうか。昨年度は、市民同士の話の中で、連携しようで終わってしまった。市民会議では、シンポジウムのテーマ決めなど、行政からいろいろ検討するテーマが与えられる。そうすると、時間がない中で集まって、分科会のテーマについて話し合い、良くしようと思っ来ているのに、やりたいことが出来ず、肩透かしになったように感じた部分があった。
- 会長： ・行政を通じて伝わっていると思っ来ていることが、伝わってなかった。その場合、分科会の市民リーダー同士で正式に依頼をし、回答を出すようにすれば良い。検討の結果、協働で議論した方が良いとなれば、協働でやれば良い。大人数になりすぎる場合は、ワークショップ形式で8人程度にして、同時並行で行ってはどうか。1人2分でも話をする、1時間過ぎてしまう。段取りについては、行政職員が行うべき。

- 委員： ・会長のおっしゃる通りにやりたいが、それがこの1年出来なかった。
- 委員： ・分科会のメンバー構成は、テーマに精通した人ばかり集まっても見方が変わらないため、立場、年齢、性別、いろいろな人がいないと前に進まない。そういったメンバーの組み合わせも考えてほしい。
- 会長： ・市民会議の立ち上げの際、希望する分科会に参加出来ることとした。また、他の分科会から来てほしいという招待もありだと思う。議論を参考にしたい、逆に、こちらに来て欲しいということも良いのではないかと。
 ・連携は、必要なときに、当該分科会から声をかける、また、他の分科会から検討に参加してほしいという依頼を出すこととする。合同で行う場合は、事務局が調整する。ただ「一緒に話をしたい」では進まない。テーマを絞り、目標や課題など、話し合う内容を具体的にすること。

3. その他

- 事務局： ・市民会議の第2期メンバー募集を行っている。行政でも呼びかけ、掘り起こしを行うが、委員の皆さんにも情報をお寄せいただくとありがたい。また、推進会議の委員の任期は3年となっているため、引き続きよろしくお願ひしたい。
 ・みんなで目指すまちづくり指標の現状値を測定するため、「市民意識調査」と「小中学生アンケート」を4月中下旬～5月上旬に実施する予定。

—終了後、市長へ提言書を提出—

市長あいさつ

- ・1年間、委員の皆さん、会長ありがとうございました。来年度の運営については、いただいた提言を基に、進めてまいります。
- ・行政の連携が取れていないというご意見があった。絞りこみが出来ていないという件について、アクションプランが具体的なものについては検討しやすかったが、あいまいなものは何について検討すれば良いのか分かりにくかったと思う。
- ・市民会議も推進会議も、第6次総合計画を進めていくために、基本計画に掲げた目標に皆さんのベクトルが合っているか、どう進んでいくのかといった意見を伺いながら、その都度、路線変更をしたり、事業のやり方を変えたり、ベンチマークまで変えることもあるかもしれない。いずれにしても、目標に向かって舵取りをしていきたい。今後ともよろしくお願ひしたい。

—議事録の内容については、書面表決とする—

今後の日程

第1回推進会議 4月16日（月）午後7時～